

みずほマーケット・トピック(2025 年 10 月 10 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

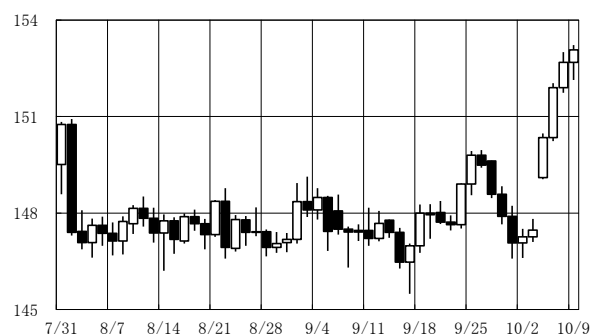
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

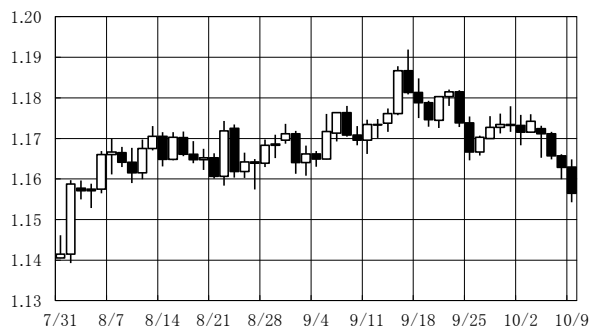
- 今週のドル/円は「高市トレード」が渦巻く中で、約8か月ぶりの高値に急伸した。週初6日、ドル/円は、自民党総裁選の結果を受けて円売りが強まり、149.58円でオープン。その後、日本株急騰も支えとなり一時150円台半ばまで上伸した。海外時間は、本田元内閣官房参与の発言などを受けて150円を割り込むも、米金利上昇が支えとなり150円台を回復した。7日、ドル/円は堅調な日本株を横目に150円台半ばでじり高。海外時間は、米金利低下や米株安となる中でも、高市新自民党総裁体制下による財政・金融政策を巡る懸念を背景とした円売りが止まらず、152円台に乗せた。8日、ドル/円は円売りが続いて152円台半ばでじり高。海外時間は、一時153円ちょうどを付けるなど円売り基調が継続した。9日、ドル/円は152円台半ばを中心に小動き。海外時間は、高市氏による円安けん制発言を受けて152円台前半に値を下げる場面もあったが、円売りに歯止めはかからず、結局153円台前半に反発した。本日のドル/円は、約8か月ぶりの高値を更新しながら取引されている。
- 今週のユーロ/ドルはじりじり値を下げる展開。週初6日、1.1715でオープンしたユーロ/ドルはルコルニュ仏首相の辞任表明を背景とした仏金利急騰や欧州株下落が嫌気され1.16台半ばに下落するも、欧州株回復が支えになり1.17台を回復した。7日、ユーロ/ドルはドル高相場の中で、独8月製造業受注の弱めな結果や独金利低下も重しとなり、1.16台半ばに下落した。8日、ユーロ/ドルは、米金利上昇が嫌気され、一時1.16を割り込むなど軟調に推移した。9日、ユーロ/ドルは米金利上昇や米株安などが重しになり、一時週安値となる1.1543まで値を下げた。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.15台半ばで取引されている。

		前週末	今 週				
		10/3(Fri)	10/6(Mon)	10/7(Tue)	10/8(Wed)	10/9(Thu)	
ドル/円	東京9:00	147.16	149.58	150.38	152.07	152.73	
	High	147.82	150.47	152.03	153.00	153.23	
	Low	147.08	149.05	150.25	151.75	152.11	
	NY 17:00	147.45	150.35	151.91	152.68	153.09	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1725	1.1715	1.1709	1.1652	1.1629	
	High	1.1759	1.1731	1.1714	1.1660	1.1648	
	Low	1.1716	1.1652	1.1648	1.1598	1.1543	
	NY 17:00	1.1745	1.1713	1.1658	1.1631	1.1564	
ユーロ/円	東京9:00	172.60	175.25	176.08	177.28	177.46	
	High	173.22	176.22	177.13	177.83	177.92	
	Low	172.60	174.75	175.81	176.93	176.81	
	NY 17:00	173.15	176.17	177.13	177.59	177.01	
日経平均株価		45,769.50	47,944.76	47,950.88	47,734.99	48,580.44	
TOPIX		3,129.17	3,226.06	3,227.91	3,235.66	3,257.77	
NYダウ工業株30種平均		46,758.28	46,694.97	46,602.98	46,601.78	46,358.42	
NASDAQ		22,780.51	22,941.67	22,788.36	23,043.38	23,024.63	
日本10年債		1.66%	1.67%	1.67%	1.69%	1.69%	
米国10年債		4.12%	4.16%	4.12%	4.12%	4.14%	
原油価格(WTI)		60.88	61.69	61.73	62.55	61.51	
金(NY)		3,908.90	3,976.30	4,004.40	4,070.50	3,972.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、15日(水)にベージュブックの公表を控える。前回9月報告分は、7月報告分から経済活動認識を下方修正したことが話題を集めた。労働市場に関する認識も多くの地区で引き下げられており、これが9月利下げの根拠の1つになったことは言うまでもない。本稿執筆時点では10月FOMCでの連続利下げがほぼ100%織り込まれているが、これを支持する内容になるかに着目したい。10月に入って以降、政府閉鎖の影響で各種重要経済指標の公表が延期されている現状を踏まえれば、FRBからの情報発信はいつも以上に重要度は増すだろう。
- 欧州では、17日(金)にユーロ圏9月消費者物価指数(HICP、確報)が公表される。速報値は、総合ベースでは+2.2%(前年比、以下同様)と市場予想に一致するも、8月の+2.0%からは伸びが加速した。コアベースでは+2.3%となり、こちらは市場予想および8月と一致した。非コア項目では、エネルギーの下落幅縮小が目立っており、これが総合ベースでの伸び率を高めた。懸案のサービス物価は+3.2%とやや下げ止まりの様相を呈しており、ECBの現状維持路線を支持する中身となっている。ECBが公表する賃金トラッカーを確認する限りでは、妥結賃金は年末以降伸びが底入れするパスが描かれている。これに伴ってサービス価格の伸びも底入れするなら、やはりECBの追加利下げは不要になりそうに思える。過度なユーロ高や米EU通商合意の巻き戻しなどが起きない限り、当面は現状維持が続くだろう。

	本 邦	海 外
10月10日(金)	・9月国内企業物価指数	・米10月ミシガン大学消費者マインド(速報)
13日(月)	—————	・独8月経常収支
14日(火)	—————	・独9月消費者物価指数(確報) ・独10月ZEW景気期待指数 ・米9月NIFB中小企業楽観指数
15日(水)	・8月鉱工業生産(確報) ・8月設備稼働率	・ユーロ圏8月鉱工業生産 ・米10月NY連銀製造業景気指数 ・米9月消費者物価指数(*) ・米ベージュブック公表
16日(木)	・8月コア機械受注 ・8月第3次産業活動指数	・ユーロ圏8月貿易収支 ・米9月小売売上高(*) ・米9月生産者物価指数(*)
17日(金)	—————	・ユーロ圏9月消費者物価指数(確報) ・米9月住宅着工/建設許可件数(*) ・米9月輸出/輸入物価指数(*) ・米9月鉱工業生産(*)

(*)米政府閉鎖に伴い、米政府統計機関公表の各種経済指標は延期される可能性がある

【当面の主要行事日程(2025年10月～)】

IMF世銀・年次総会(10月13日～18日)

FOMC(10月28～29日、12月9～10日、1月30～31日)

日銀金融政策決定会合(10月29～30日、12月18～19日、1月22～23日)

ECB政策理事会(10月30日、12月18日、2月5日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年10月9日	フランスリスクはユーロリスクに発展するか？
2025年10月8日	利上げを助ける高市トレード
2025年10月7日	史上最高値を更新したユーロ/円相場
2025年10月6日	高市政権誕生と今後の論点整理
2025年10月3日	週末版(外貨準備構成通貨の近況について(2025年6月末時点))
2025年10月2日	25年度上半期レビュー～主役の欧州通貨、悲惨な円～
2025年10月1日	いよいよ終焉を迎える「現預金50%」時代
2025年9月26日	週末版
2025年9月24日	ユーロの基軸通貨性を再考する～global euro～
2025年9月22日	日銀金融政策決定会合～10月利上げは堅いのか？～
2025年9月19日	週末版
2025年9月18日	FOMCを終えて～可視化される独立性毀損～
2025年9月17日	日銀金融政策決定会合プレビュー～自動車、読めず～
2025年9月16日	日米財務大臣共同声明の読み方～2つの論点～
2025年9月12日	週末版(ECB政策理事会を終えて～基本は現状維持、利上げの機を窺う～)
2025年9月11日	警戒すべき「貰い事故」～海外からの財政リスク相場～
2025年9月10日	円相場の需給環境について～頭打ちとなるヒト関連～
2025年9月9日	誰が「首相」になっても「変わらぬ3つの論点」
2025年9月8日	続・対米投資5500億ドル合意の現在地
2025年9月5日	週末版
2025年9月4日	遂に「利上げ再開」の兆しも出始めたECB
2025年9月3日	対米投資5500億ドル合意の現在地
2025年8月28日	週末版
2025年8月27日	円金利上昇の背景はどこに～円安終わらず～
2025年8月25日	ジャクソンホール経済シンポジウムの読み方
2025年8月22日	週末版(「ユーロ圏の「人手不足」はどうなったのか？～「需要不足」への問題意識は高止まり～)
2025年8月20日	4～6月期、「米国離れ」の真相～TICデータ～
2025年8月19日	上半期の円の需給環境について～改善傾向～
2025年8月18日	欧州の外交成果が垣間見えた米露首脳会談
2025年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年7月分)
	週末版(「家計部門の投資意欲」に腰折れ懸念～「海外→国内」のローテーションはあるか？～)
2025年8月14日	ニクソン・トランプ比較論～争点は「覇権国の管理コスト」～
2025年8月13日	ニクソン・トランプ比較論～恐れるべき結末～
2025年8月12日	過剰反応すべきではないFRB人事の影響力
2025年8月8日	週末版
2025年8月5日	米EU交渉の評価～妥協か、英断か～
2025年8月4日	遂に現れた関税の影響～雇用統計の読み方～
2025年8月1日	週末版(日銀会合を終えて～霧は完全に晴れずも10月利上げが視野に～)
2025年7月31日	FOMCを終えて～年末以降、非常に厄介な状況に～
2025年7月29日	「米国離れ」の検証～5月は過去最大の資本流入～
2025年7月28日	対米投資利益の解釈～「90%取られる」の意味～
2025年7月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月から状況変わらず～)
2025年7月23日	日米関税交渉の合意について～日銀への影響あり～
2025年7月22日	参院選を終えて～現状と展望の整理～
2025年7月18日	週末版(日銀プレビュー～「前門の国内政治、後門の米国政治」～)
2025年7月16日	日本版トラスショック再考～脆弱性は否めず～
2025年7月15日	日本版トラスショック再考～現実味を考える～
2025年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年6月分)
	日本政治の現状と展望～日本売りの材料になる政治～
2025年7月11日	週末版
2025年7月10日	追い詰められているのは米国も一緒～TACOの前提～
2025年7月9日	関税の緩衝材となる円安～日銀の判断は～
2025年7月8日	膠着する家計の投資意欲とその今後
2025年7月7日	物価高対策を巡る不可思議～王道は利上げ～
2025年7月4日	週末版
2025年7月3日	今、考えるユーロ/ドル相場の高値目途
2025年7月2日	インフレ適応が続く家計、諦観強まる若年世代
2025年7月1日	25年上期レビュー～「欧州の強さ」と「円の弱さ」～
2025年6月27日	週末版
2025年6月26日	NATO首脳会議～動き出した欧州の戦略的自律～
2025年6月25日	「米国離れ」は本当なのか～4月に起きていたこと～
2025年6月24日	衰えないスイスフラン～欧州資産へのローテーション～
2025年6月23日	目立ってきた日本の高インフレと中東リスクへの不安
2025年6月20日	週末版(FOMCを終えて～ドル/円相場への含意～)
2025年6月18日	貰かれなかった「べき」論～優しさの代償は？～
2025年6月16日	中東事変とドル/円相場への影響～円売り優勢～
2025年6月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年5月分)
	週末版(変わるドル凋落相場の背景～米国主導ではなく他国主導に～)
2025年6月12日	日銀会合プレビュー～「もう関与しない」を示す時～
2025年6月11日	円の基礎的需給環境について～暴落後の挙動～
2025年6月10日	新しい対内直投目標の読み方～「骨太の方針」～
2025年6月9日	為替政策報告書を受けて～年金運用への注文？～
2025年6月6日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面の終わり？～)
2025年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)の読み方
2025年6月3日	ECB政策理事会プレビュー～利下げは当然視できる？～
2025年6月2日	欧州再軍備と欧州版ハミルトン・モーメント
2025年5月29日	IEEPA違法判決はゲームチェンジャーになるか？
2025年5月28日	34年ぶりの首位陥落～24年末対外純資産について～
2025年5月26日	懸念通りの米EU交渉～日本との違い～
2025年5月23日	週末版(ユーロ相場の現状について～堅調に潜むリスク～)
2025年5月22日	円金利上昇と為替相場についての所感
2025年5月21日	赤澤ベッセント会談3.0～争点化する自動車～
2025年5月19日	米国債格下げの影響～急性的ではなく慢性的～
2025年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年4月分)
	週末版
2025年5月15日	懲りないドル安ナラティブ～3度目の光景～
2025年5月14日	円の基礎的需給環境について～25年1～3月期～
2025年5月13日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その②～
2025年5月12日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その①～
2025年5月9日	週末版(米英合意を受けて～むしろ心配になる米EU交渉～)
2025年5月8日	FOMCを終えて～デュアルマંデートの拮抗～
2025年5月7日	逆「アジア通貨危機」観測の考え方